



第3章

総合計画における重点的取組

高江太郎太郎踊
(南方神社春祭に伴う芸能「田打」)【川内】

1 協働・参画.....	20
2 安心・快適.....	21
3 活力・交流.....	23
4 人材・組織育成.....	25
5 スピード・品質.....	26

総合計画の施策体系は、本市の将来像の実現に向けて取り組む活動の指針であり、課題を解決する方策でもあります。

諸問題を総合的、戦略的に克服するためには、本市を取り巻く社会経済情勢や厳しい財政状況を踏まえつつ、優先順位を決めて重点的に取り組む必要があります。

このため、総合計画においては、“市民が創り 市民が育む 交流躍動都市”の実現に向け、「協働・参画」、「安心・快適」、「活力・交流」、「人材・組織育成」、「スピード・品質」をキーワードとして、次の事項について重点的に取り組みます。

1 協働・参画

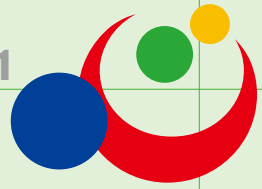
- ① 個性と魅力ある地区コミュニティ主体の地域づくり
- ② 地域資源を大切にし、ふるさとに誇りを持てるまちづくり
- ③ “活力と豊かさを感じるゴールド集落”の創出

1 地区コミュニティ協議会を主体とし、各種団体・NPO・市民と連携し、協働・参画による市民が主役の地域づくりを進めます。

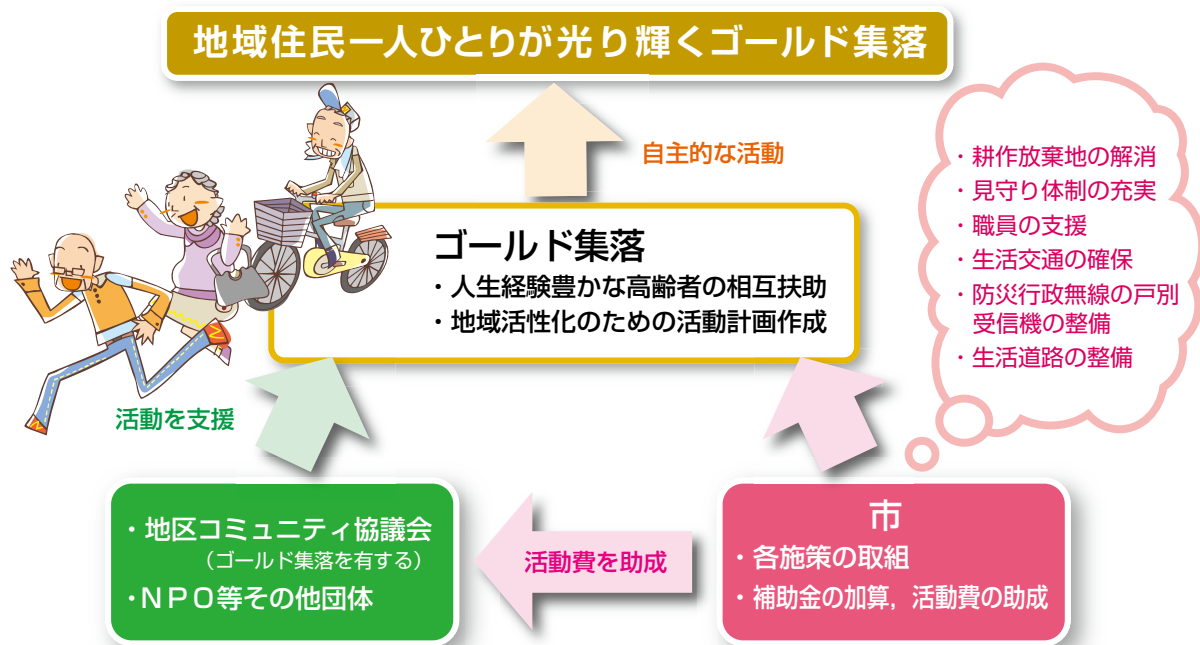
また、各地区コミュニティ協議会や自治会による地域独自の課題解決に向けた取組への支援を強化し、創造的で力強い地域づくりを進めます。

2 地域文化を保存・継承し、歴史・景観等の地域資源を大切にしたふるさとに誇りを持てるまちづくりを進めます。

3 今後、集落機能の維持が困難となるおそれのある集落の増加が懸念されることから、このような集落においても、住み慣れた地域に安心して住み続けられるよう、市民相互の連携や高齢者の有する豊富な経験、知識や技能と各地域の個性や資源を活かし、地域住民がいきいきと活躍し、一人ひとりが光り輝く地域（“活力と豊かさを感じるゴールド集落”）づくりに取り組みます。



■ ゴールド集落活性化のイメージ

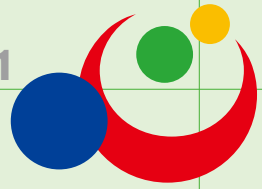


2 安心・快適

- ① 高齢者や障害者（児）等を支える福祉のまちづくり
- ② 子育て支援体制の充実による子育てしやすいまちづくり
- ③ 地域医療体制の構築による安心のまちづくり
- ④ 防災・生活安全対策及び環境対策の充実による安全なまちづくり
- ⑤ 社会基盤の整備による利便性の高い都市づくり
- ⑥ 拠点的功能を活かしたまちづくり
- ⑦ 定住自立圏の形成による均衡のとれたまちづくり

- 1 社会福祉協議会、地区コミュニティ協議会及び民間事業者との連携による地域見守り体制の構築等により、地域ぐるみで高齢者や障害者（児）等を支えるとともに、特に甑島地域においては福祉・介護従事者の育成に努め、福祉のまちづくりを進めます。

- 2 子育て支援体制の充実により，子どもを産み育てやすいまちづくりを進め，少子化対策やシティセールスの推進による定住促進に努めます。
- 3 地域の中核病院や甕島地域における医師・医療従事者の確保，医療機器の整備など，地域医療体制の構築による安心のまちづくりを進めます。
- 4 市民主体の防災・防犯に対する活動の推進や災害時の要援護者に対する避難支援等の防災・生活安全対策及び公害防止等の環境対策の充実による安全なまちづくりを進めます。
- 5 道路・公共下水道や情報通信基盤等の社会基盤整備や川内甕島航路の開設に向けた調整及び新たな公共交通システムの導入等の交通ネットワークの整備により，利便性の高い都市づくりを進めます。
- 6 各地域の交通・文化・産業拠点や港湾施設等の拠点的機能の活用により，快適に暮らせるまちづくりを進めます。
- 7 定住自立圏の形成については，「集約とネットワーク」の考え方を基本とし，中心部において圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備するとともに，周辺部において必要な生活機能を確保し，農林水産業の振興や豊かな自然環境の保全等を図るなど，中心部と周辺部が互いに連携・協力することにより，圏域全体の活性化を図ることで，圏域からの人口流出の抑止と定住促進を図ります。



■「薩摩川内市定住自立圏」の創出に向けた取り組みのイメージ



3 活力・交流

- ① 都市ブランドの構築による地域連携型観光圏の創出
- ② シティセールスの推進による総合的な情報発信
- ③ 農林畜産業及び水産業の振興と地産地消による農山漁村の活性化
- ④ 地域特性を活かした交流躍動のまちづくり
- ⑤ 企業誘致の促進，工業団地の整備及び付加価値の高い地場産業振興による雇用の確保
- ⑥ 市街地の活性化によるにぎわいのあるまちづくり
- ⑦ 地域への愛着と誇りを持てる景観形成によるまちづくり
- ⑧ 情報通信技術（ICT）の利活用による地域課題の解決

- 1 地域発の商品やサービスのブランド化と地域イメージのブランド化を結び付け，都市ブランドの構築を図ることで，他の地域とは違うまちとして地域外の人々に選択さ

れ、地域外の資金・人材を呼び込むような地域連携型観光圏を創出し、持続的な地域経済の活性化を図ります。

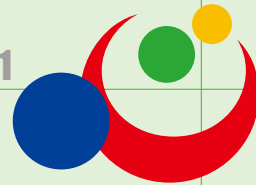
- 2 ^{きつ ません だいびと} “薩摩川内人の心” 「薩摩川内スピリッツ」をキャッチフレーズとしたシティセールスにより、地域外に本市の都市ブランドを戦略的に情報発信を行い、本市の認知度やイメージの向上を図ります。
- 3 後継者や新規就業者等の担い手対策の推進により、地域を支える農林畜産業及び水産業の振興を図るとともに、地産地消、地材地建の推進による農山漁村の活性化を図ります。
- 4 地域特性を活かした体験滞在型観光（グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム等^{*}）の推進や文化・スポーツ交流、国際交流等を活発に行い、交流躍動のまちづくりを進めます。
- 5 企業誘致の促進、工業団地の整備、地域資源を活用した特産品開発等による付加価値の高い地場産業振興により、若者から高齢者までいきいきと働ける雇用の場を確保します。
- 6 都市施設や各種の都市機能が集積している中心市街地においては、効果的・効率的にまちの生活拠点としての整備を進め、各地域の市街地においては、地域の活性化を図り、にぎわいのあるまちづくりを進めます。
- 7 雄大な自然と悠久の歴史が日常生活に溶け込んだ、ふるさとを感じられる美しい景観形成を行い、地域への愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。
- 8 医療や福祉、観光・地場産業等の各分野において情報通信技術を活用し、地域課題の解決や地域の活性化を図ります。

※グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム等

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

欧州では、農村に滞在しバカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及しており、英国ではルーラル・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、フランスではツーリズム・ペール（緑の旅）と呼ばれている。

その他、川遊び体験や清流景観の鑑賞など、川の恵みとの触れ合いにより、訪れる人々に感動を与えるリバー・ツーリズムや、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、自然観光資源の保護に配慮しつつ触れ合い、知識及び理解を深めるエコ・ツーリズムなどがある。



4 人材・組織育成

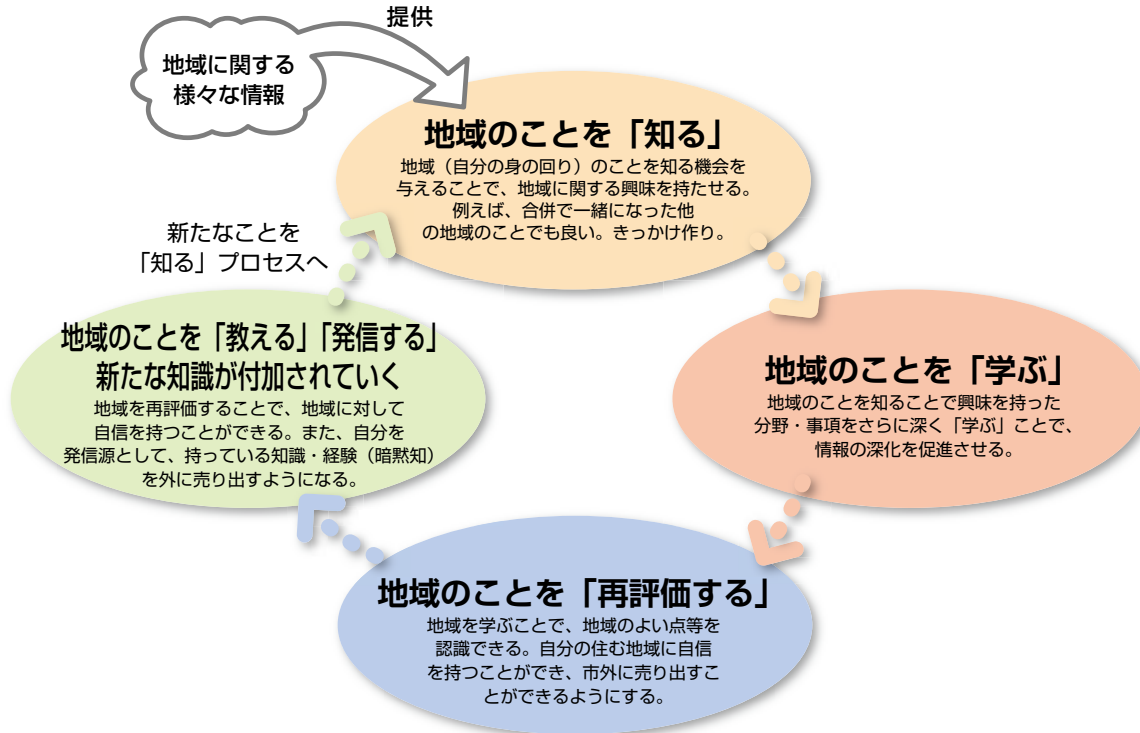
- ① 豊かな人間性と郷土愛を育む教育の推進
- ② 地域づくりを担う人材と組織の育成及びまちづくりへの積極的な活用
- ③ 地域の歴史・伝統文化の保存・継承と新たな文化を創出・育成するまちづくり
- ④ 情報発信力を有する多様な人材・組織の育成

- 1** 「まちづくりの原点は人づくり」という観点に立ち、地域の特色を活かし、豊かな人間性と郷土愛を育む薩摩川内らしい特色ある教育の推進に努めます。
- 2** 生涯学習活動の推進により、地域づくりを担う人材と組織の育成に努め、併せて、地域の人材やまちづくり団体、ボランティア団体及びNPO等の組織を積極的に活用したまちづくりを推進します。
また、地域の人材や組織の能力向上を支援し、これからの多様な活動主体を基軸とした地域づくりに向けた地域の担い手育成を図ります。
- 3** 本市に豊富に存在する有形・無形の歴史的・文化的遺産や伝統文化は、市民にとってかけがえのない共通の財産であるとともに、地域の独自性や未来に向けた新しい文化を創出していくための貴重な地域資源であることから、地域の歴史・伝統文化を保存・継承し、それぞれの価値を見直すとともに、新たな文化を創出・育成するまちづくりを進めます。
- 4** 活力ある地域づくりを進め、魅力ある地域の情報を発信するためには、まずは市民が自分たちの地域のことを知り、学び、再評価し、そしてお互いに教え合うことにより情報を共有していく必要があることから、市民による地域情報の収集と発信・活用のサイクルを構築し、市民が市民に教え合う、人から人への「知の還流※」を実現することで、情報発信力を有する多様な人材と組織の育成を行います。

※知の還流

魅力ある地域の情報を発信するためには、まずは市民が自分達の地域のことを知り、学び、そして、お互いに教え合う（情報を発信する）ことから始まります。
生涯学習の推進により、市民による地域情報の収集と発信・活用のサイクルを構築し、市民が市民に教え合う、人から人への「知の還流」を実現することで、情報発信力を有する多様な人材と組織の育成を行い、活力ある地域づくりのための人材・組織育成の基盤とします。

■ 市民による人から人への「知の還流」のイメージ



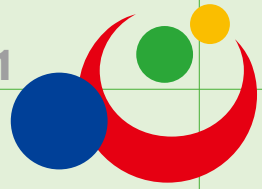
5 スピード・品質

- ① スピーディで質の高い信頼される行政サービスの提供
- ② 市民との情報の共有・協働・参画によるまちづくり
- ③ 効率的・効果的な組織力の向上
- ④ 健全で持続的な財政経営基盤の確立
- ⑤ 広聴広報機能の充実によるスピーディな情報発信と市民ニーズへの対応

1 限られた経営資源を基に、市民に信頼されるスピーディで質の高い行政サービスの提供を目指します。

2 自治基本条例が定める情報の共有・協働・参画の原則により、市民、事業者、市議会、市が一体となったまちづくりを進め、住民自治による自立した地域社会の形成を図ります。

3 最少の経費で最大の効果を上げるため、高度で専門的な知識を備え、地域づくりに



貢献する意欲ある職員の育成に取り組むとともに、職員数の適正管理、行政組織のスリム化を図りながら、効率的・効果的な組織力の向上を図ります。

- 4 地方分権の動きにも注視しつつ、経費全般の徹底した見直しや重点分野への財源配分などにより、基礎自治体として責任と役割を果たせる健全で持続的に発展可能な財政経営基盤の確立に取り組みます。
- 5 市民の声を速やかに施策に反映させるための広聴機能の強化や、広報紙や情報通信技術の活用による広報体制の充実によるスピーディな行政情報の提供により、市民の利便性の向上に努めます。